MUSEUM NEWS

2020.12 ▶ 2021.1

上田 薫

とき・11/14(土・県民の日) ～ 1/11(月・祝)
ところ・2階展示室
内容・上田薫(1928～)は、殻からつるりと落ちる生玉子、スプーンから流れ落ちそうなジャム、水の流れや空など、一瞬で姿を変えるものを清新な描写で捉えます。リアリズム絵画のなかに独自の位置を占めるその画業を、大学卒業後から現在までの作品、約80点でたどります。
観覧料・一般1100円(880円)、大高生880円(710円)
※ ( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

《関連イベント》
○担当学芸員によるギャラリートーク
とき・12/6(日)、12/13(日)各日とも 11:00 ～ 11:30
ところ・2 階展示室
内容・担当学芸員が展覧会の見どころをご紹介します。
費用・企画展観覧料が必要です。

○拡大版スライドトーク
とき・12/19(土) 14:00 ～ 14:30
ところ・2 階講堂
内容・スライドを使って展覧会の見どころをご紹介します。
費用・無料 / **定員**・50 席(先着順。開場 13:30)

上田薫《サラダ E》2014 年

コレクション 4つの水紋

とき・1/23(土) ～ 3/21(日)
ところ・2階展示室
内容・本展では、新印象派の画家ポール・シニャックや埼玉ゆかりの日本画家奥原晴湖など、4作家の作品を中心に、幅広くコレクションをご紹介します。それぞれの作家の画風などの特徴をキーワードに、思いがけない作品同士のつながりをお見せします。あたかも、静かに緩やかに広がっていく波紋のように、4作家を起点として豊かに展開するコレクションの多彩さをお楽しみいただければ幸いです。
観覧料・一般1000円(800円)、大高生800円(640円)
※ ( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

アート体感ワークショップ
MOMAS のとびら

11月から事前予約制のプログラムを再開しております。
どうぞご参加ください！
《12月のプログラム》
12月分のお申込みを受け付けております。
○親子クルーズ
とき・12/5(土)13:30 ～ 15:00
対象・小・中学生＋保護者
費用・500円
申込方法・ホームページからお申込みください。
○みる＋つくる
とき・12/12(土)13:30 ～ 15:00
対象・小・中学生
費用・無料
申込方法・ホームページからお申込みください。
※ 12月のプログラムでは、MOMASコレクション又は企画展のどちらかに関連した活動を行います。
《1月のプログラム》
1月分のお申込みを12/1(火)から受け付けます。
詳しくはホームページをご覧ください。

MOMAS コレクション(収蔵品展)

2020年度 第3期
とき・10/24(土) ～ 2/7(日)/**ところ**・1 階展示室
※ 会期中一部作品の展示替えがあります。
前期:10/24(土) ～ 12/13(日)、後期:12/15(火) ～ 2/7(日)
観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)
※ ( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。
◇セレクション
マルク・シャガール《二つの花束》ほか、MOMASコレクションの名品を紹介します。
◇花鳥を描く
吉祥画題として、あるいは身近なモチーフとして描かれる花鳥について、日本画、工芸等の作品でご紹介します。

ジュール・パスキン《眠る裸女》1928 年

《関連イベント》
○サンデー・トーク
内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

とき・12/20(日)11:00 ～ 11:20
担当学芸員・菊地真央
作品・小茂田青樹《紅梅小禽》寄託作品(個人蔵)

とき・1/10(日)11:00 ～ 11:20
担当学芸員・平野到
作品・パブロ・ピカソ《静物》1944年

小茂田青樹《紅梅小禽》
寄託作品(個人蔵)(後期展示)

アーティスト・プロジェクト #2.05 スクリプカリウ落合安奈 Blessing beyond the borders－越境する祝福－

とき・10/24(土) ～ 2/7(日)
ところ・1 階展示室ほか
内容・ある時代を生きる無名の人々、あるいは土地が引き継ぐ記憶や文化に焦点を当て、重層的なイメージをもつ作品を構築するアーティスト、スクリプカリウ落合安奈。アーティスト・プロジェクト#2.05では、各地のフィールドワークにもとづいた最新のインスタレーションを発表します。
観覧料・MOMASコレクション観覧料が必要です。

《関連イベント》
詳細が決まり次第、ホームページにてご案内します。

一般展示室(地階)

※ 日程・内容は変更される場合があります。
※ 展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。

◆12/1(火)～12/6(日)
「スープに浮かぶボートの上のパセリ」展……一般展示室4
◆12/2(水)～12/6(日)
第11回埼玉県障害者アート企画展……一般展示室1
◆12/8(火)～12/13(日)
第54回全日本書道芸術展……一般展示室1・2
第8回彩友会ボタニカルアート展……一般展示室4
◆12/26(土)～12/27(日)
第55回「郷土を描く児童生徒美術展」…一般展示室 1 ～4
◆1/12(火)～1/17(日)
第24回凛の会展……一般展示室 1 ～4
◆1/19(火)～1/24(日)
第44回埼玉国展……一般展示室1
第11回ニッコールクラブさいたま支部写真展
……一般展示室3
◆1/19(火)～1/31(日)
ヨシズミトシオ展……一般展示室4
◆1/26(火)～1/31(日)
文教大学教育学部学校教育課程美術専修 卒業制作展
……一般展示室1

研究ノート
アヴァンギャルドとアナーキー
フェリックス・フェネオンと当館の収蔵品

昨年から今年にかけて、フェリックス・フェネオンをテーマとした3つの展覧会が、パリとニューヨークで開催されました。「新印象派」という言葉を初めて用いたことで知られるフェネオンですが、これらの展覧会では画廊での仕事や、アフリカの黒人美術の収集家としての姿も紹介され、再評価の機運が高まっています。そんなフェネオンは、当館の収蔵品とも縁の深い人物です。

1861年生まれのフェネオンは20歳でパリに出て、フランスの陸軍省に勤める傍ら美術批評を執筆しました。芸術家と公衆との橋渡しをしたいと考えていた彼の大きな功績は、スーラやシニャックの点描技法を読み解き、その意図や革新性を伝えたことです。

例として、1886年の第8回「印象派展」への批評を見てみましょう。特にスーラによる《グランド＝ジャット島の日曜日の午後》に紙幅を割いて、画面上での色彩の分割が、従来の印象派とは異なる「科学的な」方法でなされていることを強調しています。そして、終生の友となるシニャックについては、「郊外の風景に魅了された」画家として紹介しました。当館所蔵の《アニエールの河岸》は、まさにシニャックがパリ郊外を描いた作品であり、この展覧会の出品作のひとつでした。川面の光のきらめきを穏やかにとらえたように見える《アニエールの河岸》ですが、フェネオンは「(シニャックは)河岸の中に水を閉じ込めるすべを心得ている」とコメントしています。「閉じ込める emprisonner」という不穏な表現に、彼はどんな意味を込めたのでしょうか。

ポール・シニャック
《アニエールの河岸》1885 年

またフェネオンは、シニャック、ピサロらとともにアナーキズム(無政府主義)に傾倒していました。1894年には、過激なアナーキストによる爆破事件への関与を疑われて逮捕されています。模範的な働きぶりの政府職員が、こともあろうにアナーキストとして逮捕。世間を騒がせた一件です。法廷での彼は、尋問への機知に富んだ返答で煙に巻き、場内からは笑いが起きたといいます。その甲斐あってか証拠不十分で無罪となりましたが、陸軍省での職は失ってしまいました。

そこへ手を差し伸べたのが、前衛芸術雑誌『ラ・ルヴュ・ブランシュ』の創刊者タデ・ナタンソンでした。フェネオンは1895年から同誌の編集に携わり、翌年からは編集長を務めました。当館ではトゥールーズ＝ロートレックによる同誌のポスターを所蔵しています。モデルとなったのは、芸術家たちのミューズであったナタンソンの妻ミシアです。フェネオンは頻繁にナタンソン夫妻のもとを訪れ、芸術談議に花を咲かせました。

当館の収蔵作家の中では、ゴーガンやドニとも親交のあったフェネオン。その多面的な活躍に目を向けていただければ幸いです。(S.A.)

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
《『ラ・ルヴュ・ブランシュ』誌ポスター》
1895 年

執筆にあたっては以下の文献を参照しました。
Félix Fénéon, *Les Impressionnistes en 1886*, Paris, La Vogue, 1886.
Félix Fénéon: The Anarchist and the Avant-Garde, exh. cat., New York, The Museum of Modern Art, 2020.

ミュージアム・ショップおすすめ商品

来年のカレンダーの準備はもうお済みでしょうか？ミュージアムショップでは毎年、さまざまな種類のカレンダーを販売していますが、その中でも特に人気の高いFlowersカレンダーをご紹介します。

白いフラワーベースの中に12種類の花がセットされていて、当月の花を回転させて持ち上げて使います。毎月立ち上がる季節の花々が、毎日の暮らしに彩りを与えてくれます。自分使いはもちろん、ギフトにも最適です。(H.S.)

Flowers ¥2,200(税別)
H192×W76×D22mm

編集後記

「コレクション 4つの水紋」展は、今年の夏に、「東京2020オリンピック」にあわせて開催する予定でしたが、コロナ禍のため会期を変更しました。多角的な視点から、収蔵品のなかに新たな文脈を探る企画展ですので、ご期待ください。(H.I.)

「上田 薫」展の作品には、キャンバスサイズの大きなものが数多くあります。等身大のリアルな生玉子など、圧倒されること間違いありません。(M.H.)

埼玉県立近代美術館
The Museum of Modern Art, Saitama
所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1
TEL・048-824-0111 **FAX**・048-824-0119 **URL**・https://pref.spec.ed.jp/momas/
代表メール・p240111@pref.saitama.lg.jp
開館時間・10:00～17:30(展示室への入場は17:00まで)
休館日・月曜日(1/11 は開館)、年末年始(12/28～1/5) **入館料**・無料 **観覧料**・上記をご覧ください。
交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。
※当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。
団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたしますが、台数に限りがありますので予めご了承ください。
©埼玉県2005

※本紙記載の展覧会やイベントについては、新型コロナウイルス感染拡散防止のため、変更・中止となる場合があります。来館の際は、事前に当館ホームページをご確認ください。

発行・埼玉県立近代美術館 **編集**・平野到・真中博行 **原稿執筆**・(K.M.) 菊地真央 / (I.A.) 飯田淳乃 / (S.A.) 佐伯綾希 / (H.S.) 浜田幸代 / (H.I.) 平野到 / (M.H.) 真中博行